

令和5年度「現代の国語」シラバス

| 科目名 | | 必修・選択 | 単位数 | 類型 |
|-------------|-----------------|-------|-----|----|
| 現代の国語 | | 必修 | 2 | 共通 |
| 教科書 副教材等 | 精選 現代の国語（第一学習社） | | | |

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習概要

教科書に掲載された評論文やレポート、公の発行物などの教材を通して、従来のように的確に「読む」だけでなく、「聞く」「書く」「話す」活動を経験することで、的確かつ効果的に表現する方法を学んでいきます。

3 学習方法

(1) 授業への取組

授業は、教材について読み考え記述し、そして発表する場です。教師が板書することをノートに書き写すだけでは意味がありません。生徒の皆さん一人一人が積極的に参加することが期待されています。

(2) 家庭学習

授業で扱う教材については事前に通読し、読めない漢字や意味の分からない語句については辞書で調べておきましょう。事前に通読するのとしめないのでは、理解に大きな差が生まれます。国語に限らず高等学校の各教科は、必ず予習をしてください。

4 評価について

(1) 評価方法

「知識・技能(①)」、「思考力・判断力・表現力(②)」、「学びに向かう人間性(③)」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法以下の通りです。

- ・定期考査(中間・期末考査、学力テスト)……………①、②
- ・小テスト……………①
- ・授業に対する姿勢や態度……………②、③
- ・発問に対する発表内容……………②、③
- ・課題や提出物等の提出状況・内容・発表方法……………①、②

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

(2) 評価規準

| | 知識・技能(①) | 思考力・判断力・表現力(②) | 学びに向かう人間性(③) |
|------|---|--|---|
| 評価基準 | 他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使うことができる。 | 状況や場面に応じた他者との関わりの中で、必要な事柄を正確に伝え、相手の意向を的確に捉えて解釈したり、効果的に表現したりすることができる。 | 現代社会に関わる話題や問題に幅広く関心をもち、現代社会に生きて働く言語の価値を尊重して、自らが継承、発展させていくことを自覚している。 |

5 学習計画

| 学期 | 単元名 | 学習のねらい（内容のまとめごと） | 考查等 |
|-----|---|---|---------------------------------------|
| 一学期 | <p>【物事の捉え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本当の自分」幻想（平野啓一郎） <p>【人間と文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の東西（山崎正和） <p>〈論理分析①…対比〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「間」の感覚（高階秀爾） | <ul style="list-style-type: none"> ・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。 ・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・ある事柄を説明しようするとき、別のものと比較すると、その特徴が相手に伝わりやすくなる。二つ以上のものを、相違性に着目して比較することを対比という。また、類似性に着目して比較することを類比と呼んで区別する場合がある。 | <p>学力テスト①</p> <p>中間考查</p> <p>期末考查</p> |
| 二学期 | <p>【言葉と情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものことば（鈴木孝夫） <p>【科学と人間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文化」としての科学（池内了） <p>〈論理分析②…事実と意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私作り」とプライバシー（阪本俊生） <p>【生活の中の表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働問題に関わる資料を読み比べる ・図書委員会のポスターの掲示内容を検討する | <ul style="list-style-type: none"> ・具体（例示）と抽象（意見）の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。 ・筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。 ・文章で何かを述べるとき、ある事実をもとにして、そこから情報を積み上げて意見を形成する方法がある。個別の事実から得られる情報を集めて、より一般化された傾向をつかむことで、本質に近づいていくことが可能となる。 ・労働問題に関わる資料を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の情報を関連づけて理解したことをまとめる。 ・与えられた資料と会話文を関連づけながら、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。 | <p>学力テスト②</p> <p>中間考查</p> <p>期末考查</p> |
| 三学期 | <p>【社会と人間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不均等な時間（内山節） <p>【現代と社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバリズムの「遠近感」（上田紀行） <p>〈論理分析③…主張と根拠〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインの本意（原研哉） | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ・「遠近感」の二重の意味を文脈から把握し、グローバル社会における問題を多様な視点から考える。 ・「論理的である」ということは、「根拠に基づいた主張がなされている」と言い換えることができる。相手を説得したり納得させたりするためには、妥当な根拠によって主張が支えられていることが必要である。 | <p>学力テスト③</p> <p>学年末考查</p> |